

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	武雄市立山内西小学校
1 前年度 評価結果の概要	①知的な学校【知的好奇心の育成】について ・学力向上対策評価シートを活用して、児童の実態を基にした授業改善策を全職員で共通理解するとともに、「授業づくり123」も活用しながら全職員で共通実践ができた。次年度は、授業の「まとめ」や「振り返り」を充実させて自己の成長を自覚させるとともに、「毎日の授業がよくわからない」と回答した児童に対する個別の指導・支援や家庭学習への取組を充実させ、学力の底上げを図ってきたい。 ②居心地のいい学校【自己肯定感の育成】について ・「山内合言葉」の日常的な唱和、「思いやりの木」プロジェクトの年間を通した取組、人権週間・平和週間の取組を行ったことで、児童アンケートにおいて「学校が楽しい」と回答した児童が91%、「自分や友達のことを大切に思っていて行動している」と回答した児童が94%に達した。今年度の取組内容の意義を全職員で確認するとともに、児童に対しては学校行事の目的やそこで培った力を自覚させる活動を工夫して、次年度も全職員で共通理解のもと教育活動を展開していきたい。 ③元気な学校【挑戦心の育成】について ・運動会、走ろう大会等の体育的行事を工夫し、児童の体力向上を図ることができた。また、給食委員会の活動や栄養教諭とのチーム・ティーチングによる授業を実施したことで、「健康に食事は大切である」と考える児童が98%に達した。今年度の取組内容の意義を全職員で確認し、次年度も共通理解を図りながら、継続して体力向上や健康な食習慣の定着を図ってきたい。
2 学校教育目標	やる気いっぱい 笑顔いっぱい 元気いっぱい 輝く山内西の子
3 本年度の重点目標	①全職員の共通実践を通した教職員の資質向上 ②人権教育の更なる充実による児童の自己肯定感の育成 ③体育的行事の工夫による児童の健康・体力づくりの向上

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		
評価項目	重点取組	取組内容	成果指標(数値目標)	中間評価		最終評価		
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師が90%を上回る。 ○学級や個人の実態に応じきめ細やかな指導を充実させる。	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師が90%を上回る。 ○学級や個人の実態に応じきめ細やかな指導を充実させる。	「授業づくりステップ123」のチェックリストを活用した自己評価を定期的に行い、授業改善の意識の継続を図る。 ・各学級や個人の実態に応じて授業の形態を工夫する(習熟度、少人数指導の実施)。 ・ICT機器を活用した授業を毎日1単位時間以上実施し、効果的だった授業実践等を共有する。	B	「授業づくりステップ123」で月1回振り返りを行うことにより、意識の継続を図ることができている。「少人数での話し合い活動」や「振り返り」については目標達成が十分ではないため、時間確保や効果的な取り組みなどを今後研修してきたい。 ・算数だけではなく、音楽や家庭科の授業においても、人数が多いクラスの授業形態を工夫して実施できている。 ・ICT機器を活用した授業はどのクラスでも実施できているが、共有することは今後実施してきたい。	A	「授業づくりステップ123」をもとに、教師が定期的に授業を振り返りすることで、授業改善への意識化や取組を継続することができた。その結果、マイプランの成果指標ステップ2以上の評価を90%の教師が達成できた。 ・職員アンケートでは、「学級や個人の実態に応じた学習指導の工夫」について、100%の教師が「実施できた」と回答した。児童アンケートでも93%の児童が「学校の勉強がよくわかる」と回答し、保護者アンケートにおいても98%の保護者が「学校は分かる授業に努めている」と回答している。今後も取組を継続したい。
		○各教科と関連した読書活動の充実	○年間の目標冊数(低学年120冊、中学年110冊、高学年100冊)を達成した児童の割合80%以上。 ○各教科と関連した読書活動を各学年において年間2回以上計画し、取り組む。	・授業内容と関連した読書活動を計画し、授業に位置付ける。 ・読書に対する意欲を高める取組(本の紹介、環境整備、図書館祭り)を年間2回以上計画し、実施する。	B	・全学年において、国語などの学習と関連した読書活動に積極的に取り組んでいる。 ・7月の図書館祭りは、しおりづくりやクイズを実施することで、児童が本への興味をさらに深めることができた。	B	・年間の目標冊数を達成した児童の割合は75%にとどまり、成果指標の80%を達成できなかった。図書館祭りの年間2回開催、図書室の環境整備は年間を通して工夫することができた。 ・「各教科と関連した読書活動に年間2回以上取り組む」についても、75%の達成にとどまった。児童の文字離れや語彙不足が課題となる中、更に読書活動の充実に向けた取組を工夫する必要がある。
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、自主性など、豊かな心を育む教育活動	○「自分や相手が大切だ」と思う児童を85%以上にする。 ○気持ちのよい挨拶や返事・言葉遣いを意識して行動できる児童(自己評価)85%以上にする。	○「自分や相手が大切だ」と思う児童を85%以上にする。 ○気持ちのよい挨拶や返事・言葉遣いを意識して行動できる児童(自己評価)85%以上にする。	・歓迎遠足や運動会等で異学年交流の機会を設け、思いやりのある関わり方を意識させる。 ・人権・向和教育、男女平等教育は全教育課程に位置付け、教育活動の中で子どもと周りの人のつながりや一人ひとりの存在を認め合うようにする。	B	・歓迎集会や1・6年1・2年の異学年交流を実施し、思いやりをもった友達との関わりを意識させるよう指導し、児童も、思いやりの言動を意識した関わりや声掛けができた。今年度は中学年においても異学年交流を積極的に取り入れていき、運動会のふれあい班交流で、さらに意識を高めた。 ・挨拶については、各クラスの強化週間や、自分の学級においては気持ちのよい挨拶ができている。今後は、日常生活や地域の中でも、気持ちのよい挨拶ができるように指導していく。	A	・児童アンケートでは、「自分や友だちが大切だ」と回答した児童が97%で成果指標を達成できた。また、「『優しい言葉を周りの人』を意識して行動している」93%、「学校が楽しい」90%となっており、実践にもつながっていると考えられる。 ・「気持ちのよい挨拶や返事、丁寧な言葉遣い」ができている」と回答した児童は92%で成果指標を達成できた。地域の方への挨拶については課題が残るため、今後も更に取組を工夫してきたい。
		●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「やまうち合言葉」の「優しい言葉を周りの人」を意識して行動できる児童(自己評価)を90%以上にする。	・毎月、「教育相談」「いじめアンケート」を実施し、いじめや気になる児童の早期発見・早期対応に努める。	A	・毎月1回、心のアンケートを実施した。また、教育相談月間を6月に設けるとともに、「いじめ・体罰アンケート」を全児童及び保護者に対して実施した。気になる児童に対しての教育相談を全学級で実施し、全ての事業に対応することもできた。	A	・児童アンケートで「『優しい言葉を周りの人』を意識して行動できた」と回答した児童は93%で、成果指標を達成できた。 ・今年度は、月1回の「心のアンケート」を実施した。保護者の94%、職員の100%が「『いじめ・体罰アンケート』や『心のアンケート』をとったことにより、いじめを早期に発見したり、防止することができた」と回答しており、今年度の取り組みが効果的だったと考える。
		○特別活動との関連を意識した道徳科の授業実践	○職員アンケートで「特別活動との関連を意識した授業を実施できた」と思う職員を90%以上にする。	・校内研究として、各学級で全体研やグループ研を行い、特別活動と関連した道徳科の充実を図るとともに、授業力の向上を図る。 ・定期的にスキルアップ通信を配布し、職員の意識の向上に努める。	B	・6月、7月に全体研及び研究会を行った。9月以降も同様し、全体研やG研を行い、授業力の向上を図っていく。 ・毎週スキルアップ通信を配布し、道徳科の授業に対する意識の向上を図った。今後も継続して配布していく。	B	・全体研を中心に、全職員で道徳科の授業の在り方を考えることができた。また、研究授業後はスキルアップ通信を配布し、成果や課題を振り返ることもできた。保護者アンケートにおいても、97%の保護者が「本校の道徳科の授業は、豊かな心情を育てている」と回答している。しかし、職員アンケートで「特別活動との関連を意識した授業を実施できた」と回答した職員は80%で、特別活動と関連した授業づくりには課題が残った。道徳科の授業改善に向けた更なる取り組みが必要である。
●健康・体づくり	●安全に関する資質・能力の育成	●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。	●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。	・各学級で安全教育について指導する。 ・集団登校の重点指導期間を設定するとともに、交通ルールなど定期的に全校児童で確認をする。 ・自転車点検のお願いを年2回行い、安全な自転車に乗るようにする。 ・長期休業前には、くらしの話をしたり、地区児童会をしたりして、安全な過ごし方を意識させる。	B	・年度初めに交通安全教室を各学年行い、安全教育に対する意識を高める取組を行った。 ・地区児童会を行い、地区ごとの登校班の確認や地区の様子把握などを行った。 ・全校朝会や給食の時間を使って、生活の話を、生徒指導担当が行った。 ・今年度は、例年どおりの避難訓練(不審者や地震・火災)に加え、休み時間を使った予告なし避難訓練、水害時の保護者引き渡し訓練を行い、防災意識の向上を図っている。	B	・児童アンケートでは、「97%の児童が『交通のきまりを守っている』」と回答した。また、保護者アンケートでも、97%の保護者が「学校は、安全な生活への意識を高めている」と回答した。しかし、今年度は児童の下校時の交通事故が1件発生した。次年度は、年度当初に計画している交通安全教室の在り方や集団登校強化期間における取り組み方を工夫し、交通安全教育を更に充実させていきたい。
		○望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○「健康に食事は大切である」と考える児童100%を目指す。 ○朝食をとって登校する児童生徒90%以上を目指す。	○「健康に食事は大切である」と考える児童100%を目指す。 ○朝食をとって登校する児童生徒90%以上を目指す。	・各学級での食育指導を行い、食事の必要性に気付かせる。 ・給食時間の放送を通して、食材の産地や調理方法に関心をもち、食事の大切さに気付かせる。	B	・中間アンケートでは、「健康に食事は大切である」と考える児童99.3%、毎日朝食をとって登校する児童88.4%、週に半分以上朝食をとって登校する児童5.7%という結果だった。今後は、学級での食育指導や給食時間の放送を通して、食事の必要性や大切さに気づかせる指導を継続したい。	A
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●時間外在校等時間の上限を遵守し、職員アンケートで「勤務時間の上限を超えない範囲で業務を遂行できた」と回答する割合を90%以上にする。	・定時退勤日(毎週金曜日)を確実に実施し、18時に施設する。 ・校務システムを利用して、職員会議等の時間を削減する。	B	・定時退勤日の実施は92%の達成率だった。午後6時の施設が実施100%となるように、今後は職員の計画的な業務遂行について管理職から声掛けを行って徹底を図る。 ・職員会議は全て提案内容が整理されており、全ての会議が時間内に実施できている。さらに効率的に進むよう手立てを考案したい。	B	・職員アンケートでは、「勤務時間の上限を超えない範囲で業務を遂行できた」と回答した職員の割合は85%で、成果目標の90%を達成できなかった。また、定時退勤日に午後6時の施設が実施できたのは、88%にとどまった。次年度は、職員の業務改善への意識を向上させるだけではなく、計画的、協力的な業務遂行ができるための組織づくりやシステムを工夫する必要がある。
		○「コミュニティ・スクール」及び「官民一体型学校」としての開かれた学校づくり	○保護者アンケートで「開かれた学校づくりに努めている」の肯定的な回答を90%以上にする。	・地域と連携した教育活動の様子を、学校HPや学校・学級だより等で定期的にかつ積極的に情報発信する。	A	・1学期に学校便りを14号発行し、校区内の全所需に配布するとともに、ホームページでも公開し、学校の様子を幅広く周知することができた。 ・地域の方が授業に参加したり、児童が地域に向向いたりする地域連携型の教育活動を昨年度の約2倍実施している。(出前授業、保護者による授業への学習支援、社会科見学など)	A	・保護者アンケートで「学校は開かれた学校づくりに努めている」と回答した保護者の割合は98%で、成果指標を達成できた。 ・地域の方が授業に参加したり、児童が地域に向向いたりする地域連携型の教育活動が、昨年度の約2倍の回数で実施できた(出前授業、平和大使などの講師招聘、町探検、社会科見学、スケッチ会、保護者による授業への学習支援、ボランティア活動など)。今後は、地域連携の教育活動の質を高めていきたい。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目							
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価	
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果
◎志を高める教育	○自らの夢や目標をもち、それに向けて「自分から」「自分で」努力しようとする気持ちを高める教育活動の推進	◎自分の課題に「自分から、自分で」行動できる児童を(自己評価)85%以上にする。	・キャリアパスポートを活用することで、自分の課題を自主的・自発的に解決という意識を高める。	B	・キャリアパスポートを活用して年度当初に個人のためをを設定した。そのためを基に月ごとの目標を設定し、児童に自分の課題を意識させ、その解決の達成を図らせたり、大きな行事に際してキャリアパスポートに振り返りをまとめることで、次の活動に自主的に取り組もうとする意欲を高めた。	A	・児童への聞き取りアンケートでは、生活や学習に対して、「『自分から自分で』を意識して行動できた」と考える児童が90%であった。キャリアパスポートに活動の目標と振り返りを記入することで、見直しをもって活動に取り組むことができるよう工夫した成果と考える。
○特別支援教育の充実	○教員の児童理解と支援力の向上	○職員アンケートで特別支援教育に関する児童理解と支援力が向上した教師80%以上を目指す。	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・ケース会議の開催、連絡会による情報共有をする。	B	・職員は研修会やケース会議を通して、児童の実態に応じた手立てを工夫している。具体的な支援のあり方や方法については、さらに検討し、実践していかなければならない。	A	・職員アンケートでは、「特別支援教育に関する児童理解と支援の重要性を認識している」と回答した教師の割合は95%で成果指標を達成できた。今後もケース会議や専門機関との連携などを通し、職員間の情報交換を密にして、具体的取り組みや手立てを更に探ってきたい。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・「授業づくり123」を活用して授業改善に取り組んだことで、本校の課題であった授業の「まとめ」や「振り返り」の充実を図ることができた。その結果、93%の児童が「学校の勉強が分かる」と回答しており、学んだことや自己の成長を自覚できた児童が多かったと考える。次年度は、「授業がよくわからない」と回答した児童に対する個別の指導・支援や家庭学習への取組ませ方を更に工夫し、学力の底上げを全職員で図ってきたい。 ・児童アンケートで「自分や友達のことを大切に思っていて行動している」と回答した児童は97%で、昨年度より3%上回った。各プロジェクトによる取組の工夫や、特別活動と関連させた道徳科の授業実践の成果と捉える。次年度も、全職員で共通理解のもと継続した教育活動を展開していきたい。 ・昨年度に引き続き、運動会や走ろう大会等の体育的行事を通し、健康な体づくりへの取組を継続することができた。健康な食習慣の定着に向けた取組についても、保護者アンケートでは97%の保護者が肯定的な回答をしている。しかし、児童アンケートにおいて「バランスよく食べる」ことに関する否定的な回答をした児童が9%いたことから、次年度は、食育年間指導計画に基づく計画的な指導を更に充実させていきたい。
----------------	---